

# 洋書輸入協会会報

VOL. 7

NO. 4

(通巻72号) 昭和48年4月

## 理事会報告

3月12日(月)

- (一) 2月分収支計算予算対比表の審議。
- (二) 「会報」の代理店案内欄掲載記事について実費を請求することに決定——別項参照。
- (三) 理事会と外国出版社代表者との懇談会を3月15日開催に決定。
- (四) ヨーロッパにおける通貨情勢およびそのわが国に及ぼす影響について、情報交換ならびに討論。
- (五) その他

3月15日(木)

1時30分から出版クラブにおいて外国出版社代表者との懇談会を開催。出席代表者11社11名。当面する諸問題について意見を交換、4時30分散会。

3月26日(月)

- (一) 各委員会から予算要求の資料を提出。総務委員会で、収入、支出双方について検討の上、予算原案をつくることとなる。
- (二) 3月15日の外国出版社代表者との懇談会について報告。
- (三) 経営研究委員会からアンケートの集計結果について報告。この結果にもとづき、業態についてアンケート形式による調査をおこなうこととする。
- (四) ブリッティッシュ・カウンシルのトム・モーン氏から要請があるので、とりあえず、理事会で同氏と懇談することとする。
- (五) 国際通貨情勢について情報を交換。
- (六) 労働問題研究委員会から春闘の状況につき報告。
- (七) その他。

## 経営研究委員会報告

2月に、下記のテーマで、会員各位にアンケートを求めました所、多数の御回答を頂きましたので、集計結果を報告します。

### アンケート題目

1. 省力化の問題の研究が必要であろう。
2. 税に関する情報交換、研究をしたらどうか。
3. 業界のデータをまとめる必要があろう。例えば、業界の売上高、成長率、利益率、在庫廻転率、適正在庫高、従業員数と一人当り売上高等々、他の業界では常識的な数字が我々には何一つ分っておらず、データがなければ研究も出来ない。アンケートを出して調査集計する等のことをしてはどうか。
4. 共通な問題を持つ各社の責任者がもっと頻繁に顔を合せて意志を疎通する機会を持てば、種々と有利な共同作業が出来るのではないか。

### 回 答 集 計

|                 | 正 会 員 | 準 会 員 | 賛助会員 | 合 計 |
|-----------------|-------|-------|------|-----|
| ア ン ケ ー ト 発 送 数 | 70    | 9     | 14   | 93  |
| 回 答 会 社 数       | 34    | 2     | 2    | 38  |
| 回 答 内 容         |       |       |      |     |
| 第 1 項 ○ 印       | 20    | —     | —    | 20  |
| 第 2 項 〳         | 13    | 1     | —    | 14  |
| 第 3 項 〳         | 27    | 2     | 2    | 31  |
| 第 4 項 〳         | 16    | 1     | —    | 17  |
| そ の 他           | 4     | —     | —    | 4   |
| 計               | 80    | 4     | 2    | 86  |

以上によりまして、次は第3項の業界データ収集に取りかかるつもりでおります。宜しく御協力の程をお願い致します。

### 会 員 紹 介

#### 株式会社 彰 国 社

代表者 下 出 源 七

つい最近まで彰国社の子会社として、国際出版貿易商会の名前で営業しておりました。設立は自社の海外向け雑誌、書籍の輸出、版權取扱い等が専門で輸入は全然しておりませんでしたが(1)海外書籍の翻訳本を出版するためのニュースを得やすいこと。(2)海外の建築関係出版物の動向を知ること。(3)当社と関係ある設計事務所や学校の先生方より洋書の問い合わせが少しづつ増加して来たこと。(4)輸出向けの本が減少して来たことなどの理由で、5、6年前より建築洋書の輸入を始めて現在に至っております。洋書業界においては未熟ですが、緻密な情報、迅速かつ誠意あるサービスで建築界発展に寄与して参りたいと思っております。

## 洋書入門講座（Ⅱ）

### — 始めて洋書を取扱われる方のために —

相 良 廣 明

#### 4 外商とそれに伴う問題

洋書も、和書と同じく外売がある。ただ和書と違うのは、和書が圧倒的に店頭販売が多いのに対して、洋書の場合は正反対に外商が圧倒的に多いことである。

店頭販売の場合は、一冊一冊お買いあげになるが、お客様自ら足を店頭へ運んで頂いて、自らお持ち帰りになるし、現金引き換えという絶対に有利な点がある。勿論店頭では、万引きというリスクや、立ち読みのための本の汚損、デッド・ストックという問題がある。これ等を考慮に入れて、和書の商いは店頭販売の経費が基本になって定価が出来上っている。

外商の場合は、こちらから出掛けなければならない。納品から支払いを頂くまでには、書類だけでも見積書・注文書・納品書・請求書を作らなければならないし、御支払いに対しては領収書を作らなければならない。その間には何度お客様の許に足を運ばなければならないことか。店頭販売の場合には、立地条件の良い所に店を作る設備投資が要るが、外商の場合はそちらの必要性は少ない。その代り、店の場合にはいらない日常的な外商経費が必要になる。そういう関係で、和書外商は、定価の中でその外商経費を賄うことが、得意先が近いとか集中している場合以外には非常に困難になる。

洋書の場合には、この外商経費が賄えるように定価が立てられているが、それでも、お客様からお支払いを頂くまでの期間が永くなったり、割引きをしたり、書類作製に手間ひまを掛けているようでは賄えなくなってしまう。

我々は商業人であるから、適正な利潤を頂かなければやっていけない。然し、文化的な商品を扱っているのだから、決して暴利を貪ったり、不正な手段で利を得ようとしてはいけない。正々堂々と、しかも適正な利潤で販売活動を行いたいものである。

#### 5 流過程

和書の場合は、出版社→取次店→小売店の過程を経て書籍・雑誌は配給され、逆の経路で返品される。

この流通経路は、殆んど全部の書籍・雑誌が含まれるが、僅かな例外として、出版社が直接販売する場合がある。外国にも、多かれ少かれこのような流通経路は存在するが、日本程取次店経由が殆んど完璧に近い程常態化している所は、世界中でどこにもない。

何故日本がこのような形態を取っているかという点、それには種々の歴史的、経済的な要因があるが、一口にいうと、委託販売の多い日本の販売方法では、輸送が往復になり、しかも小規模な小売店の多い日本では、配給先が極めて多岐にわたるため、輸送機能が集中されて取次店がこの過程を全面的に担当するという極めて合理的な制度である。同時に小規模出版社と小売店の多い日本では、取次店がその間に立って資金繰りの役目を果している。

所が外国では、買切り制度が主体であるとか、その他諸々の理由でこのように便利な制度はあまり発達しておらず、あっても取次手数料が15%から20%にも及ぶ高額なものとなっている。そこで洋書輸入の場合には、大部分の書籍・雑誌を直接に出版社へ注文し、之を洋書輸入業者兼小売業者である我々が、直接輸入し、直ちに小売するという、流過程としては最短距離にあってこれ以上縮めようがないという理想的な状態となっている。

従って、他の諸輸入品のコストが、小売価格の三割程度のもので多いのに較べて、和書とあまり変わらない程度で抑えられるという大変な節約を果している訳である。

その代り、世界中の主な版元と直接取引をするからには、他の業界では考えられない程の多数の仕入先と一々取引しなければならないという大変な手間を掛けることとなる。

#### 6 売価換算率と平価変動

昭和24年4月25日、マッカーサーによって（実際的にはジョセフ・ドッジであろうが）1ドル=360円の為替レートが設定されて以来、永い間ドルと円との関係は変らなかったが、昭和46年12月20日に、第一回の円の切り上げがあって、今また第二回目の円の切り上げの直前にある。（昭和48年2月20日現在）

それまでにも、主要各国の通貨は、矢張り何度か変動している。主なものを拾っただけでも次の通り。

1948. 1. 26 (s 23) フランス・フラン 44.45 % 切り下げ。

1949. 4. 25 (s 24) 日本、1 ドル 360 円の平価を設定。

〃 9. 18 (〃) 英ポンド、30.5%切り下げ。

1957. 8. 10 (s 32) フランス・フラン 16.67 % 切り下げ。

1958. 12. 29 (s 33) フランス・フラン 17.55 % 切り下げ。

1960. 1. 1 (s 35) フランス・デノミを実施。

1961. 3. 6 (s 36) 西ドイツ・マルク 5 % 切り上げ。

1967. 11. 18 (s 24) 英ポンド、14.3%切り下げ。

1968. 1. 1 (s 43) ジョンソン米大統領、ドル防衛措置を発表。

1969. 8. 10 (s 44) フランス・フラン 11.1%切り下げ。

〃 10. 27 (〃) 西ドイツ・マルク 9.29%切り上げ。

1971. 8. 16 (s 46) ニクソン米大統領、金・ドル交換の一時停止等衝撃的なドル防衛策発表。

〃 8. 28 (〃) 日本・円、変動相場制へ移行

〃 12. 20 (〃) 日本・円、16.88 % 切り上げ  
ドル = 308 円となり12月19日には通貨の多国間調整なり、基準裁定相場が発表され、20日より実施。

1972. 6. 23 (s 47) 英・ポンド、変動相場制に入る。

1973. 2. 14 (s 48) 米・ドル、10%切り下げ、日本・円変動相場制に入る。

以上の、この25年間を通観すると、最初のうちはフランス・フランがどんどん切り下げられ、つまり弱くなり、次いで英・ポンドが終始切り下げを断続的に繰り返し、途中から西ドイツ・マルクが強くなり、最近になって日本・円が強くなり、同時に米・ドルが弱くなり始めている。国力の消長を如実に示している。

そして、通貨の価値が上ったり下ったりするたびに、換算率が違って来るから、本の値段も違って来る。外国の方で切り下げれば安くなり、切り上げれば高くなる。日本の方で切り上げれば安くなる。

では、1 ドルが308 円で換算されているから、10 ドルの本は3080円で売られているかというと、そうではない。その理由を説明しよう。

我々は、正確にいうと洋書輸入業者であると同時に小売業者であるから、そこには和書と同じように版元からの仲間割引、所謂卸価格があって、若干の割引を受ける。

和書の場合は、昭和47年に、小売店側が結束して出版社側に、此の卸価格（正味）を引き下げよう要求を出して、そこで所謂ブック戦争と云われる騒ぎがあったが、洋書の場合も、殊に雑誌は非常にこの割引が少ない。それに、外国の場合の学術書は、非営利団体が刊行していることが多いから、割引なしということも多い。

その上に、運賃、保険料、書留料等は、我々の側の負担である。そこで我々としては、各国間で取り極めている基準の相場を定価にする訳にはいかず、若干之を上廻った換算率を設定してこれで外国の定価を換算したものを日本の価格としている訳である。

従ってその基準価格が、例えば円切り上げがあって変動した場合には、実際問題としてはいつも二ヶ月程遅くはなるが、我々独自の立場でこの売価換算率を変更しなければならず、そしていずれは、在庫商品の価格も全部つけ変えていかなければならない。そして、世界の大勢は円高に動いているので、その度毎に洋書の定価が下り、総販売高の減少、在庫価値の減少という危機に直面している現状を直視しなければならない。

これは和書の場合には全く存在しない洋書独特の性質である。

## 7 P Rの方法

日本の場合は、皆さんが出版物の広告を見るのは、出版社が出している広告であって、小売店が書店の広告をしているものは殆んど無いことに気付かれていると思う。つまり、出版物の広告は出版社の分担となっている。

外国でも同様である。所が、アメリカのベストセラーは決して日本のベストセラーにならないように、アメリカならアメリカで出した本の需要は、アメリカ国内の場合と日本の場合と全く質を異にする。

それは、横文字の本を楽しみのために読む日本人の数は、日本全体の洋書の需要の中心での全く微々たる部分に過ぎないからで、日本の洋書の需要の圧倒的な部分は、研究のために必要だから買う、読むということである。洋書の文庫本は成程相当に売れ

ている。然しその文庫本を、楽しみのために買い、読んでいる人の数よりも、英語の勉強のために、或いは、楽しみながら英語を勉強しようという目的があって買われる人の方が遙に数が多いというのが実情である。

であるから、アメリカならアメリカの出版社が、アメリカ人のために広告するものは、日本では通用しない。全アメリカの、大げさに云えば、全世界の出版物の中から、我々の手で日本のマーケットに合うように、日本のマーケット向きものものを選び出し、再分類して広告をやり直さなければならない。

此の努力と、その費用は我々持ちでやるものである。そして、世界中でそのようなことをやっている外国書輸入業者は、日本を除いては極めて数が少い

ことを、附け加えておかなければならないだろう。

もう一つPRの点で強調しておきたいことは、雑誌の場合である。外国の、特にアメリカの場合は、誌代は、スポンサーの広告媒体としての価値によって決ってくる。広告価値が高ければ誌代は安くなり、少なければ高くなる。和雑誌の場合は、一部の婦人雑誌を除いては誌代の主体はその雑誌そのものの値打ちであり、広告価値はプラスアルファである。

そこで、殊にアメリカの場合、スポンサーが、日本には、広告の効果が期待出来ないかと判断すれば、その雑誌の値段は、日本向けにだけ高くなって来る。その操作は送料で調節されるという原則を承知しておかないと、同じ大きさ、同じ重さの雑誌の送料が、Aは10ドルで、Bは50ドルだという現象が説明出来ないことになる。(以下次号)

### —BOOK REVIEW No. 3—

H・ブレッサー著、轡田収訳・「書物の本」西欧の書物と文化の歴史、書物の美学。  
法政大学出版局 1,800円

窪 川 輝 蔵

よく趣味はと聞かれて、読書と答える人がいるし、「本が好き」と云うと、如何にも真面目で聞えが良く、一般的に無難な応対だと思われる。本屋になる、或いは書店に勤めると云うのは、概して本が好きだからと云う人が多いのではないかと思うが、人によっては特に本に執着しない人もいようである。

私の狭い経験から云うのだが、本について人には二つのアプローチの仕方があるようである。所謂知的好奇心からかれて本のまわりをうろろろする人種と、本そのものを手にする事に喜びを見出す人々である。勿論この二つは判然とは区別出来ないのだが、読者の楽しみと云うか、未知の世界への誘い、新しい知識獲得の喜びを与えてくれるものとしての本そのものに、一種のマニヤ的趣味を持つものあながち無理からぬことだと思う。

この本は、いわば本そのものについての歴史的な考察をその内容としている。本の内容と云う観点から歴史を語れば、それは恐らく思想史(特に近世以前に於て)になってしまうであろう。著者はドイツのマインツ市にあるゲーテンベルグ博物館の館長である。その肩書からもわかるように、その関心は主として本を製作する立場、つまり、紙、印刷機器、活字の字体、図版、頁の構成、マージン等々にあって本書も専らこの点に焦点があてられて書かれている。イラストレーションも多く掲載されており、我々が最近のリプリント版などで目にかかる様々の字体が紹介されていて、筆写の時代から機械による印刷への移行の時、或は本の大衆化の時代の苦心をまのあたりに見るような気がする。

私は本屋のはしくれとして、本に興味を持っていたが、このような類書はまだ読んで事はなかった。従って著者の叙述が漸新であるとか、新資料が紹介されていてオリジナリティーに富むとか云う批評は全く出来ない。だが然し、ゲーテンベルグの四十二行聖書が、見た眼に美しく、且つ均齊のとれたメーキャップになっていて、書かれた内容と本としての形に統一がある、つまり、書かれ思想を受入れて行く読者の目に、適当な間隔で配置された活字、その字体の量厚な味等、本の形が本に書かれた思想としつかり結びついている美しさにはやはり強く心をうたれ、こう云うところに本の一つの魅力があるのだなと、集書家の気持が分るような気がした。たしかにそれは、ペーパーバックに慣れた我々の目に何か失われたものを思い起させてくれるに充分であった。

たしかにペーパーバックスは出版界にとって一つの革命であったと思う、だが一体的生産物、或は思想知識の伝達手段としての本が、その内容には殆ど無頓着に、実用一点張りの体裁で大量にバラまかれるときに、何か落し穴があるのではないかと危懼するのは、時代遅れであろうか。形のない内容と云うものはないであろうし、若し、あったとすれば、それは、ルールのないスポーツと同じであり、ただやたらバットを振ればホームランが出るだろうと考えるのと同じであろう。著者の意図を紙と字体とデザインで、一つのものとして作って行く、その様な本のあり方を、この本は教えてくれる。インキュナビラとは十五世紀以前の本の事を云うと云う知識もさることながら、この本の行間に、その様な現代への批判を読むのは少し行きすぎであろうか。書店員の皆様に一読をおすすめしたい。

# Rowohlt Verlag

## (E. ロボルト小伝：その二)

また、当時（1913年頃）S. Fischer が語った言葉として「今に世の中が悪くなって、まともな本など出せなくなり、やがては新聞紙で本を造るようなことになるかもしれない。」というのをロボルトは書き留めている。S. Fischer の云った「悪い時代」とは第一次大戦とそれに続く時代を意味したものなのだが、その予言を胸に刻んだロボルトが、実際にその問題に直面するのは第二次大戦後のことになる。しかしここでは、それは後で語ることにして、1920年代以後のロボルトの歩みを駆足で追ってみることにしよう。

新しい時代のドイツの作家や詩人を次々にとりあげて、その作品を出版する傍ら、彼は又海外の作家の作品を翻訳によって紹介することに意を注ぎ、Sinclair Lewis や Ernest Hemingway 等の米文学をドイツの読者の机の上に送った。そして「人を知る」ということにかけて特異の才能を持った彼は、これらの作家と終生の親交を結んでいる。

だがナチの時代が進行するにつれ、出版界の空気は重苦しくなっていた。ロボルトはナチに忌避された作家を意に介せずとりあげていったが、それも遂に1938年、業務停止命令を受けることによってピリオドが打たれる。ドイツに絶望した彼はブラジルに渡り、そこで馬商人となる。このあたり、彼の行動の上にはヘミングウェイの影響が濃い。しかし彼はやはり本を離れては生きられない人間の一人であった。「私は馬を育て売ったけれど、それ等は曾て私が育てたペガサス等（作家）とは比すべくもなかった」と彼は述懐している。

ロボルトが国外にあった此の時期にも、出版社としてのRowohltは息絶えた訳ではなかった。若き日のロボルトが恋を得た女優 Maria Ledig との間に生れた H. M. Ledig が、その業を守り命脈を保っていたからである。そして第二次大戦はすべての人間を混沌のうちに巻きこみ、それが終末を告げた時、廃墟となったハムブルグからロボルトは不死鳥のように甦る。

戦後の Rowohlt 初代編集長（もっともその頃の Rowohlt 社は彼の他にはロボルト自身と、タイプストの三人だけだったらしいが）を勤めた K. W. Marek（後に C. W. Ceram の筆名でベストセラー作家となる）の思い出話にこんなものがある。或る日 Marek は有望な二人の作家を見つけたことをロボルトに告げる。だが当時のロボルトにとって二人の作家を世に送ることは不可能であった。即決派のロボルトは、二人のうちの一人に絞ることに決める。その作家の父が酒とコーヒーを扱っているという理由からである。今夜は飲める、と期待してその家を訪れたロボルトとマレク。だがどうしたことか一杯のコーヒーも、一杯のシュナップスにもありつくことが出来なかった。廃墟の夜の道を悄然として歩む二人。ふとロボルトは立ち止り、マレクに云う。「お前たしか二人とも良いと云ったな。じゃ別のにしよう」こうして一人の作家が——彼等の言を借りれば、酒抜き、コーヒー抜きの作家が、世に送られることになる。それが実に Walter Jens のドイツ文壇へのデビューであった。

活字に飢えたドイツの民衆に読物を提供しようと、H. M. Ledig は E. Kästner 等と図って新聞紙に刷ったタブロイド版の rororo 冊子の刊行にふみ切る。その価格 50 ペニヒ、刷部数は10万。かつての S. Fischer の予言が適中したことを苦い思いで認めながら、ロボルトはこの若い世代の新しい試みに同意を与えたことであろう。（このタブロイド rororo 版が刷られたのが1946年、その後 H. M. Ledig はアメリカに学び、1950年にいたって始めて現在の形の rororo が世に出ることになる）

戦後の苦難の時期が過ぎたとき、60を越したロボルトは、今やドイツ出版界の長老であった。ハムブルグのRowohlt社の彼の部屋からは、昔と変わらず大声で社員を叱咤する彼の声が響いたが、社員達は、オヤジさんまたやっていると口顔で笑い合ったことであろう。

1960年、“本造り”に捧げた彼の生涯が幕を閉じた時、葬儀を司式したマルチン・ニーメラーは牧師としてではなく、唯の人間として斯う語った。「彼ロボルトは、いかなる時も他者を思い、人が苦しみの内にある時はそれを庇護し、そして世の専制と権威に対しては闘士として立ち向った人であった。」

Rowohlt 社は文芸出版社として従業員80、年商8億円。1953年にポケットブック部門が分離した Rowohlt Taschenbuch Verlag は従業員130、年商16億円を数える（1972年現在）。

## 和製英語と外来語

三省堂辞書課 亀 井 龍 雄

外国語が日本に上陸しはじめてから、数百年にもなる。その時々、社会情勢を反映して、あるものは消え、あるものは残り、その消長は一つの文化史を形成しているともいえよう。消え去ったものもむろん多いが、その数倍の外国語が、国際間の交流が盛んになるにつれて、日本語の中に入り、多くは一般市民のことばとして定着している。

戦後、マス・コミ・コンピュータ・科学・芸術・スポーツ用語などの分野で、和製英語を含む外来語の氾濫はおびただしい。最近話題となっている国語問題にも、正統な日本語を乱す元凶として、よく外来語がとり上げられる。とくにファッションのCMなどでは「フレッシュなセンスのオートクチュール」「ナウなファッション」といったように、外来語の間に日本語の助詞があるといったありさまで、識者のヤリ玉に上ることが多い。

それはそれとして、それまで日本になかった事物や状況が新しく入ったり、生まれたりした場合、翻訳語をつくるよりそのまま外国語を使ったほうがびったりくる場合がある。たとえば、「乾酪」というより「チーズ」、「電髪」というより「パーマ」、「濯水浴」というより「シャワーバス」、等々のほうがぐあいがいい。

この点からみても、外来語が現代を表現する日常語として定着していることはいふまでもない。しかも、そうした外来語について正しく意味を理解し、正確に使いこなしている人々は数少ないといわれ、なんとなくこんな意味だろうと曖昧に使い、そして対話にずれが出てくる例を多くみる。

現在日本語の中に外来語として通用している英語を使って、英語国民と話をしてみたら話が通じなかった、というようなことをよく耳にする。これは和製英語であったからであり、中国語の書きことばとしての漢語を全面的に借用した日本人が、中国人と話をしてみても通じないのと同じで、外来語は往々にして意味のすりかえをとまなうからであろう。

日本人は日本語と外来語をつなぎ合わせて、一つの新しい語を造成することが多い。これはすでに

日本人が中国から漢字をとり入れたときからの方法であり、漢語の造語法でもある。中国語では自国語と外来語とを接合してつくる場合は、外国の固有名詞と中国語の単語との複合による場合が多いのである。たとえば、「バリ・コミュニケーション」を「巴黎公社」[bali-gong she]、「ワシントン会議」を「華盛頓会議」[hua sheng dun-huiyi]という。なお、普通名詞は意識することが多い。たとえば、「カメラ」は「照像機」[zhaoxiang ji]、「タイプライター」は「打字機」[da zi ji]、「ケーブルカー」は「纜車」[lan che]という。

日本で独自につくられた「和製英語(洋語)」は非常に多い。たとえば、興行物の案内や入場券の前売りをする「フリーガイド」がそうで、しかも商標として登録されている会社名である。英語ではふつう「ticket agency」という。注文服のことを「オーダー・メード」というがこれもそうで、英語では「made-to-order」、または「custom-made」という。以下、例をあげると「スプリングコート」は「top-coat」、「デコレーションケーキ」は「fancy cake」、「テーブル・スピーチ」は「after-dinner-speech」、「バックミラー」は「rearview mirror」、「レーンシューズ」は「rubber shoes」等々である。

以上は「英語+英語」という組み合わせであるが、違った国のことばを二つ結び合わせてつくった「和製洋語(フランス語+英語、ドイツ語+英語、フランス語+ドイツ語など)」も相当数ある。たとえば、映画・テレビなどの主題歌の「テーマ・ソング」は「<sup>D</sup>Thema+英song」であり、「バカンス・ウェア」は「<sup>F</sup>vacances+英wear」、登山用語の「ビバーク・ザック」は「<sup>F</sup>bivouac+<sup>D</sup>Sack」の合成語である。

こうしてみると、日本人はあまり関係のなさそうな国と国からの外来語どうしを結び合わせて、すこしも奇異に感じない。まさに、結び合わせの達人である。

(筆者は、三省堂版「コンサイス外来語辞典」の編集担当者)

## ニ ュ ー ス

- このたび株式会社イタリア書店の代表取締役役  
伊藤基道氏が就任されました。なお前代表取締役  
西村暢夫氏は昨年12月に退任されました。
- 3月26日付けで、株式会社竹内書店(監事)が、  
洋書輸入販売業務の廃止にともない、退会されま  
した。
- 国際出版貿易商会(準会員)は、千代田区平河  
町での業務を中止し、下記の名称および事務所  
営業されることになりました。  
株式会社彰国社業務部外国課  
新宿区坂町25 電話359-3231 内線58,59
- Academic Press の Vice-President Mr. Bur-  
gess 3月下旬来日。
- Feffer & Simons の Mr. Donald Traynor 3  
月下旬来日。
- Harcourt Brace, International Corp の Vice-  
president, Mr. Burgess Whiteside 3月下旬来日。

## 総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お  
手許の Agent List にご記入願います。

|                                                                                                                         |            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 医 歯 薬 出 版 (株)                                                                                                           | ☎ 828-9147 |
| Emmelin & Zotterman: Oral Physiology<br>(Wenner-Gren Center International Symposium<br>Series Vol. 20), 1972 (Pergamon) | ¥10,300    |
| Gaerny: Removable Closure of the Inter-<br>dental Space, (C.I.S.), 1972 (Quintessenz)                                   | ¥17,280    |
| Kimmel & Walker: Practising Dentistry;<br>Ergonomic Guidelines for the Future, 1972<br>(Quintessenz)                    | ¥15,120    |
| Levy et al.: The Marmoset Periodontium in<br>Health and Disease (Monographs in Oral<br>Science Vol. 1) 1972 (Karger)    | 5,060      |
| Listgarten et al.: Gingival Epithelium (Oral<br>Sciences Reviews Vol. 1), 1972 (Munksgaard)                             | ¥6,500     |
| Miller: Removable Partial Prosthodontics,<br>1972 (Wilkins)                                                             | ¥5,940     |

|                                                                                           |         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| Provenza: Fundamentals of Oral Histology<br>and Embryology, 1972 (Lippincott)             | ¥5,220  |
| Ross & Johnston: Cleft lip and Palate,<br>1972 (Wilkins)                                  | ¥8,820  |
| Schön: Teamwork in the Dental Practice,<br>1972 (Quintessenz)                             | ¥9,380  |
| Scott & Dixon: Anatomy for Students of<br>Dentistry, 3rd ed. 1972 (Churchill Livingstone) | ¥4,120  |
| Strassburg & Knolle: Diseases of the Oral<br>Mucosa, -A Color Atlas, 1972 (Quintessenz)   | ¥17,280 |
| Year Book of Dentistry 1972, 1972<br>(Year Book)                                          | ¥4,680  |
| Weine: Endodontic Therapy, 1972<br>(Mosby)                                                | ¥8,820  |

海 外 出 版 貿 易 (株) ☎ 292-4271

Springer-Verlag

|                                                                                                                                                                                                                                             |              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| Klein F. - Gesammelte Mathematische Abhand-<br>lungen, 3 Bde. (Reprint der Erstauflagen<br>Berlin, 1921-1923) '73                                                                                                                           | ¥24,150      |
| Johnson Reprint<br>Encyklopadie der Mathematischen Wissenschaften<br>mit Einschluss ihrer Anwendungen. (Hrsg. im<br>Auftrage der Akademien der Wissenschaften<br>zu Göttingen, Leipzig Zahlreicher Fachgenossen,<br>Leipzig, 1898-1935) '73 | set ¥270,000 |
| Special Reports, Inc. (N. Y.)<br>Who's Who in Ecology, 1973.                                                                                                                                                                                | ¥16,500      |
| Ecology U. S. A. 1972.                                                                                                                                                                                                                      | ¥41,250      |
| Special Report/Ecology (Weekly) Air Mail only                                                                                                                                                                                               | ¥51,300      |

丸 善 (株) ☎ 272-7211

|                                                                                                                       |            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| Cumulative Index to Proceedings of the IEEE.<br>Subject & Author 1960-1971. Ready in January<br>'73. 500 p.           | ca ¥14,700 |
| Cumulative Index to Entire IEEE Transactions &<br>Journals, Subject & Author 1951-1971. Ready in<br>May '73. 2,500 p. | ca ¥47,100 |
| Cumulative Index to Transaction of ASME. Subject<br>& Author 1957-1970. Ready '72. 495 p.                             | ¥15,700    |
| Cumulative Index to Journal of Physics A to E.<br>Subject & Author 1950-1970. Ready '72. 744 p.<br>(日外アソシエイツ)         | ¥22,800    |
| Gans, S. L. - Surgical Pediatrics.<br>(Grune & Stratton, N. Y.)                                                       | ca ¥5,440  |

## お 知 ら せ

これまで洋書輸入協会々報の「総代理店ご案内」欄につきましては、無料で掲載してまいりました  
が、すべての会員が平等にこの欄に掲載されているわけではない上に、印刷費の高騰という事情もあ  
り、第7巻第4号(本年4月号)から、掲載社名を除き、一行につき40円いただくことになりましたの  
で、御了承いただきたいと思ひます。なお組み方によりいくらかの不公平がでるかもしれませんが、お  
許してください。



Numerical Methods in Fluid Mechanics. Proceedings of the Third International Conference on Numerical Methods in Fluid Mechanics July 3-7, 1972, Universities of Paris VI and XI. (Lecture Notes in Physics, Vol. 18 and Vol. 19) Ed. by H. Cabannes and R. Teman. Vol. 1: General Lectures, Fundamental Numerical Techniques. 186 p. 2: Problems of Fluid Mechanics. ca 300p. (Springer, Berlin) Vol. 1: ca ¥2,700 2: ca ¥2,990

Physics of Semiconductors: Proceedings of the 11th International Conference on the Physics of Semiconductors, held in Warsaw, Poland, July 25-29, 1972. Organized by the Institute of Physics, Polish Academy of Sciences and University of Warsaw. 2 Vols. Elsevier, Amsterdam) ca ¥22,200

Proceedings of the Thirteenth International Machine Tool and Research Conference, held in Birmingham in September 1972. Ed. by F. Koenigsberger and S. A. Tobias. (Macmillan, London) ca ¥18,000

Schmid, F. - Pädiatrische Radiologie. 2 Bde. Bd. I: Stützgewebe - Zentralnervensystem - Syndrome. ca 580 S. II: Innere Organe. ca 600 S. (Springer Verlag, Berlin) Bd. I. Sub-Price: DM 198.40 Regular: DM 248.00

Sandritter, W. & C. Thomas. - Color Atlas and Textbook of Macropathology. (Year Book Medical Pub. Chicago) ¥13,860

Sandritter, Walter. - Color Atlas and Textbook of Tissue and Cellular Pathology. New 4th Edition (Year Book Medical Pub., Chicago) ca ¥13,860

Sellekaerts, W. (ed.) - Essays in Honour of Jan Tinbergen. 3 Vols. Vol. 1: International Trade and Finance. 2: Economic Development and Planning. 3: Econometrics and Economic Theory. (Macmillan, London) per vol. ca ¥6,300

Sorsby, Arnold (ed.) - Clinical Genetics. 2nd ed. 660 p. (Butterworths, London) ca ¥17,510

Ullman, J. R. - Pattern Recognition Techniques. (Butterworths, London) ca ¥10,300

Webster's New Companion to English and American Literature. General Editor: Arthur Pollard. 864 p. (World Pub., Co., Cleveland) ca ¥4,950

Woodliffe, E. J. and R. P. Herrmann. - Concise Haematology. (E. Arnold, London) Cloth Ed. ca ¥3,710 Paper Ed. ca ¥1,850

東京洋書 (株) ☎ 543-7853

World Meeting Information Center, U.S.A.

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| Current Programs 月刊   |         |
| (Semail) with Binder  | ¥32,000 |
| Current Programs      |         |
| (Airmail) with Binder | ¥40,250 |
| Quarterly Index       |         |
| (Seemail Only)        | ¥38,000 |
| Annual Index          |         |
| (Seemail Only)        | ¥38,000 |
| Quarterly & Annual    |         |
| Index (Combined Rate) | ¥53,200 |

## 会員の横顔

極東書店

一條元美



十年ほど前のことである。偶然なことから、知人の奥さんがむかし一條さんの家の隣りに住んでいて、幼な馴染みであったことを聞かされた。その時彼女は真顔で云ったものである「あの方に商売なんて出来るんでしょうかねえ。」まったく少壮の学者、研究者といった方が一條さんにはふさわしい。

東大史学科卒。学者になる程勉強をしなかったもので、と謙遜される。何も知らずに勤めた出版社が潰れる寸前の会社で、その解散を決める会議の席の隈で、一生懸命英文コレポンの本を読んでいたことを今でも憶えてます、と云われるが、実務の世界にとびこんだ青年の日の、一寸ほろ苦いような思い出は聞く者の共感を誘うものがある。福島氏との名コンビで今日の極東書店を築きあげられたわけだが、その苦労にはあまり触れず、「よい友人を得、先輩知人に励まされ、そしてお客さんに助けられて今日まで来たわけです」と語られるけれど、その勉強家であること、良く本を読む人であることは定評がある。

情報産業のうちに置ける洋書の位置づけをしないといけない、それにはそれなりの新しい哲学も必要で、それによって新しい洋書屋としてのものの考え方を育てあげねばと話される。一條さんの話は決して能辯ではないが、その一種差らいを含んだような、諄々たる語り口は人を惹きつけるものがある。理事会の若手メンバーの一人として会員の信望を集める所似でもあらう。

趣味はスポーツ、中でも野球と水泳。スタイルからいっても JBIA がチームを作ればピッチャーといったところであろう。ところで、若手とか少壮とか書いたけれど、お生れは何年で、と何ったら「二桁ですよ」という返事。これを大正ととるか、或は明治、昭和ととるかは読む方の自由にお任せすることにする。

御家族は奥様とお子様二人（やっぱり昭和は少々無理なようです。）（自宅：世田谷区千歳台2-13-21）

粉粒体の計測と解析に必備の資料〈第2版全4巻〉

# THE PARTICLES ATLAS

2nd Edition in 4 Volumes

By Walter C. McCrone

■ご予約承り中■

全4巻揃 特価 ¥69,300

固体が微細化された粉粒体の解析の新領域をひらくものとして注目された第1版の刊行以後、McCrone Theoryの理論は一段と深められてきました。第2版は、第1版をさらに充実・発展させ収録物質600の各種データと顕微鏡写真2,700枚を全4巻に収録。地質学、水理学、土壌工学、化学工学や、金属冶金、高分子、医薬品、工業薬品、食品、工業衛生など広範な分野における粉粒体の計測と解析に不可欠な資料です。

## Book I: PRINCIPLES, INSTRUMENTATION AND TECHNIQUES.

Part I: Optics and the Microscope.

II: Techniques for Particle Characterization.

III: Sample Collection and Preparation.

IV: Characterization and Classification of Particles.

〈4月下旬入荷予定〉 予定価 ¥19,800

## Book II: LIGHT MICROSCOPY ATLAS.

Part I: Use of the Atlas.

II: Atlas of Color Photomicrographs.

〈今夏入荷予定〉 予定価 ¥26,400

## Book III: ELECTRON MICROSCOPY ATLAS.

Part I: Use of the Atlas.

II: Atlas of Scanning Electron Micrographs.

III: Atlas of Transmission Electron Micrographs.

〈5月刊行予定〉 予定価 ¥23,100

## Book IV: HANDBOOK FOR ANALYSTS.

Part I: Tables and Charts.

II: Glossary.

〈7月刊行予定〉 予定価 ¥19,800

(Ann Arbor Science Pub., Ann Arbor)

日本総代理店



〔〒103〕東京都中央区日本橋 2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京5番

支店・営業所—東京(丸の内・浜松町)・札幌・旭川・仙台・横浜・静岡・名古屋・金沢・京都・大阪  
(心斎橋北・梅田)・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄／ニューヨーク

■丸善洋書コーナー—東京駅丸丸・新宿伊勢丹・池袋芳林堂・横浜高島屋

昭和48年4月 通巻第72号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329